

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 赤坂小 学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）				最終評価（2月末）				
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期（中期）経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
1	主体的に学 びに向かう 力の育成	★	見 直 し	自ら学び続ける 児童の育成	・ふり回りの項目を意識させ ながら、次への学びとつなげ ていけるようなふり回り（自 己評価）を行う。 ・「何を学ぶか」「何につま ずいているのか」を明確にし た教材研究を行う。	・「自分で学び方を考え工夫 することができている」児 童、前年度以上（R6学テ、 1の評価44.1％） ・「次の学習へ、分かった点 やよく分からなかった点をつ なげることができる」児童、 前年度以上（R6学テ、1の 評価38.2％） ・全国学力・学習状況調査で 正答率40％未満の児童前年 度以下（R6学テ10.2％）									
5	豊かな心の 育成		見 直 し	他者と関わるこ とを通して、児 童の自己有用感 を高め、自他を 大切にできる児 童の育成	・様々な人（異学年や地域の 方々等）と関わることを通し て、児童が、自他の良さに気 づき、自己有用感を高めるこ とができるようにする。 ・人権尊重の精神に立った、 開発的な生徒指導の充実を図 る。	・児童アンケート「自分は、 人の役に立っている」と実感 している児童80％以上 ・不登校出現率前年度以下 （R6 2.0％）									
5	健やかな体 の育成		見 直 し	自己課題を設定 し、健やかな体 を自己管理する 児童の育成	・全校が取り組む体育的活動 等では、全学年共通の目標・ 振り返りカードを活用し、目 標設定と振り返りのPDCAサ イクルで、児童の自己調整力 を高める。 ・家庭学習やSNS等、児童 が、自らの生活習慣を見直 し、心身ともに健康に過ごせ るよう生活習慣改善に取り組 む。	・運動（体を動かす遊びを含 む）やスポーツが、嫌い・や や嫌いな児童、前年度以下 （R6 2月時点 7％） ・毎日3時間以上ゲームをす る児童前年度以下 （R6学テ 14.7％）									
1	教職員が自身 の力量向上に 向けて、やり がいをもって 働こうとする 学校づくり	★	新 規	教育公務員とし ての自覚と責任 をもって、学校 運営へ参画す る。	・教職員が学期に1回以上、 還元研修や授業に関わる研修 等を行う。 ・教職員同士が、日々、児童 の課題や個々のつまずきをも とに、教材研究や支援方法等 について対話する場を持つ。	・教職員アンケート「日々の 授業や子どもの姿について、 立場や役割を超えて対話して いる」教職員、前年度以上 （R6 肯定的評価58.3％） ・教職員アンケート「人はど のように学ぶのか、何につま ずくのかについて関心を持ち 教材研究をしている」教職員 前年度以上（R6肯定的評価 41.7％） ・教職員アンケート「仕事に やりがいを感じている」教職 員前年度以上（R6 肯定的 評価 50％）									

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100％以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80％以上100％未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60％以上80％未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40％以上60％未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40％未満の達成度	目標を達成できなかった。